



秋田をこくる建設人

Vol.07

土木設計

田中 清佳さん(40代)

創和技術(株) [秋田市]

キャリア 18年



地域の安全と暮らしを守る
「見えない」インフラ整備
それが私のやりがいです



道路や河川のインフラ設計の現場で、土木構造工学の専門性を活かして活躍する女性技術者がいる。創和技術の田中清佳さんだ。建設コンサルタントという職業について聞くと、穏やかな笑顔から一変、技術者としての顔に変わる。

仕事の「やりがい」は？

建設業という建物や道路を作ることだと思われがちですが、規模の大きな建造物や工事であればあるほど、前工程のプランニングの段階も複雑です。顧客に、より良い選択をしてもらえるように提案をしたり、専門的なアドバイスをしたりすることも、建設コンサルタントの役割です。私は主に、堤防等河川関連の構造物設計や土砂災害時のハザードマップの作成に携わることが多いですが、いずれも、いざという時に人の命に直結する仕事です。大きな責任を感じるとともに、地域の安全や暮らしを守ることに貢献できていると感じられるのが、私にとっては一番やりがいを感じられる点です。

建設業界に入ったきっかけは？

数学などの理系の科目が好きで、建築や土木などの「ものづくり」にも興味があったので、大学院で土木環境工学を専攻しました。図面をひいたり計算したりするのがカッコいいなと思ったのと、学んだ構造系の知識も活かせると思って、土木設計の仕事を選びました。ものづくりのスケールが大きくて楽しいですよ。土木を選んで良かったと思っています。建設業というのは、リレーのようなものです。私が設計した図面を、工事屋さんに渡して、そして形になっていく。自分の担当する仕事が終わった時の達成感はもちろんですが、完成した構造物を眺めていると実感が湧いてきます。自分の頭の中にしかなかったものが目の前に実体として現れる、これは土木設計の魅力ですね。

印象に残った仕事は何ですか？

2019年に携わった*土砂災害防止法に伴う基礎調査です。実際のハザードマップの作成だけではなく、現地調査に入る前の調整から、地元での説明会まで、全てのフェーズで関わりました。人前で話すのが苦手なので、大変なこともありましたが、終わってみるといろんな人と関わりを持つことができ良い経験になりましたね。災害は起こらないことが一番ですが、もしもの時に私が作成したマップが少しでも役に立ってくればなど。ハザードマップの作成は、機会がある限り携わっていきたい仕事ですね。

CAREER UP

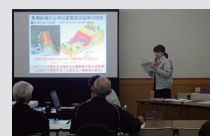
2004年 入社 → 2006年(3年目) 測量士 取得 → 2008年(5年目) 技術士補登録 → 2016年(13年目) RCCM (鋼構造及びコンクリート)取得

コンサルタント業務では顧客の信頼を得ることが重要。知識のブラッシュアップをかねて、RCCMの資格取得を開始。

→ 2017年(14年目) RCCM (河川、砂防及び海岸・海洋)取得 → 2018年(15年目) 河川点検士取得 → 2019年(16年目) RCCM (土質及び基礎)取得

「より責任のある業務にも自信をもって挑戦したい」と、現在は技術士の資格取得を目標にしている。

ココロに残っているプロジェクト



*土砂災害防止法に伴う基礎調査 (2019~2020年/秋田県)

調査前の調整から、ハザードマップの作成、地元説明会の開催など、一連の業務を責任者として担当。

田中 清佳さんの もうひとつの 物語



“Shall We Dance ?”

趣味の社交ダンスを長年続けているという田中さん。「数年前に選手登録をして、大会にも挑戦し始めたんです。ラテンの競技ダンスをやっています」と、話してくれた。創和技術では「ノー残業デー」の取り組みがあり、平日のレッスンにも通いやすいのだそう。週に一度のダンスレッスンの日は、田中さんにとって息抜きの場となっているようだ。

